
平成19年度 皮革に関する技術討論会（シンポジウム）及び 東京農工大学公開セミナー開催報告

東京都立皮革技術センター

本シンポジウムは、環境面から日本の皮革産業の今後のあり方を探る討論会で、経済産業省の補助により例年東京都と兵庫県で開催している。また、一昨年より東京農工大学の公開セミナーを同時開催し、一般の来場者にもコラーゲン等に関する基礎知識がよくわかる親しみやすい構成になっている。

当日の参加人数は58名。長時間にわたり活発な討論が行われた。その概要について報告する。

日 時：平成19年10月19日(金)施設公開日
場 所：東京都立皮革技術センター講習室

テーマ：平成19年度皮革に関する技術討論会（シンポジウム）及び東京農工大学農学部硬蛋白質利用研究施設公開セミナー

共 催：経済産業省皮革原料問題等研究会、日本皮革技術協会

I. 東京農工大学公開セミナー

「皮膚とコラーゲン：健康な肌を保つためのいろいろなコラーゲンの役割」

東京農工大学農学部硬蛋白質利用研究施設 教授 西山敏夫氏

皮膚は、成人で総表面積が1.5～2.0㎡に及び、ヒトにとって最大の成分である。その主成分であるコラーゲンは、ヒトの全タ

ンパク質の約25%を占め、皮膚、骨、軟骨、腱をはじめ、各種臓器の結合組織を構成している重要なタンパク質である。現在、20種類のコラーゲンと約25種類のコラーゲン分子鎖である α 鎖が同定されている。

皮膚のコラーゲンについて、①皮膚の構造、②皮膚のコラーゲンの種類、③各コラーゲンの特徴と機能が説明された。コラーゲンは加齢とともに減少するのでそれを補う必要があるといった宣伝がよくされている。しかし、これらの効果を検証した研究はまだ少ないのが現状である。東京農工大学ではこの点に関し研究を進めている。コラーゲンの機能にはまだ不明な点が多く、今後もさらなる研究が必要である。

II. シンポジウム

「エコレザー基準値・運用システムとその運用事例」

皮革消費科学研究会 会長 中村 蔚氏
エコレザーとは、革に関して一定の材料基準を満たし、革の資源・製造・流通・消費・廃棄・リサイクル（ライフサイクル）等、各段階において総合的に環境への影響が少ないと認められる革材料と定義される。

人体安全性基準に適合する商品が増えれば、環境技術や環境意識も高められ、消費者に安心を与える効果も期待される。このような制度は一般的にエコラベルあるいは

エコマーク等と呼ばれる。革用エコラベルの大半は1990年代にヨーロッパで発行されたものである。その後、我が国の皮革業界からの強い要望もあり、平成17年に日本皮革技術協会がエコラベル基準値策定委員会を設立し、さらに(社)日本タンナーズ協会とともに平成18年、日本の革用有害物質検査済み（以下J S Gと記す）エコラベルの基準値を策定した。

本年、(財)日本環境協会の「エコマーク」の「かばん・スーツケース」の改定に伴い、革製かばん（バッグ）を含む新基準の中にJ S G基準値が適用された。経緯説明後、日本版革用エコラベルを目指したJ S Gラベルを独自に運用・実施するシステムについて説明が行われた。概略は以下のとおりである。

まず、人体への安全性を考慮した革を消

費者に知らしめる指標となるJ S Gラベル意匠図案（マーク）を作成した。次いでJ S Gラベル認定手続および申請・登録書類の書き方をまとめた。また、革の定義、仕上げの定義、適用範囲の区分等を明確にし、より信頼性が高い基準値となるよう改訂した。



総合討論の様子